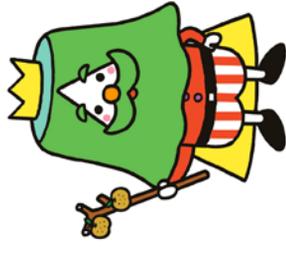


蔵王町の放課後児童対策の現状

平成30年5月11日 第71回提案募集専門部会



蔵王町観光PRキャラクター
★**たおうさま**



1. 蔵王町の紹介

- 蔵王連峰の東麓、宮城県の南西部に位置し、町域の約60%が山林原野。
- 稲作、果樹などの農業と、酪農が盛んである。
- 蔵王国定公園に含まれ、遠刈田温泉を有する観光の町でもある。

2. 蔵王町の人口と児童数

【人口】

平成30年3月末現在の町の世帯数は4,507戸、人口12,248人

【児童数】

未就学児	463人	保育所	公立2箇所
小学生	534人	幼稚園	公立3箇所
		小学校	公立5箇所



3. 蔵王町の小学校

(H30. 4. 1) (人)

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	立地状況
円田	14	21	15	15	13	13	91	田園地帯にあり、3世帯 家族が多い
平沢	13	7	6	11	13	9	59	田園地帯にあり、3世帯 家族が多い
永野	18	18	9	16	29	13	103	町の中心にあり、核家族 の多い
宮	38	28	30	41	31	28	196	交通のアクセスもよく、 人口が集中核家族が多い
遠刈田	10	9	15	17	14	20	85	山間部に位置し、温泉街 にある
計	93	83	75	100	100	83	543	

幼稚園・保育所を卒園し、小学校に入学



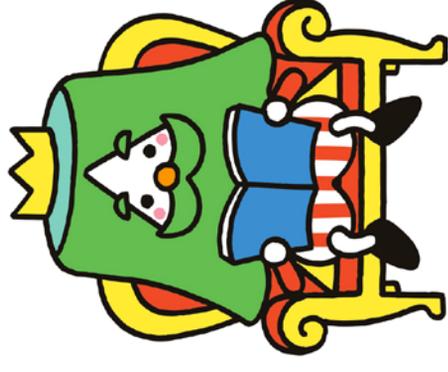
放課後児童対策

蔵王町の受け皿



- (1) 放課後児童クラブ (5クラブ)
- (2) 児童館 (5児童館)
- (3) ございん学習室 (5学習室)

(小・中学校における放課後学習指導) P. 7参照



4. 蔵王町の放課後児童対策



(1) 放課後児童クラブ

対象学年	小学1～6年生
提出物	放課後児童クラブ利用申請書、就労証明書
利用時間	授業終了後～18時 学校休業日 7時30分～18時
利用料金	無料 ただし延長利用者（17時15分～18時）は、 月額2千円 *おやつは、5時15分～
休館日	土、日、祝日、年末年始

* 各放課後児童クラブの実施状況

(H30年度)

	登録児童数 (H29)	登録児童数 (H30)	規模 利用人数	職員数 H30	資格 (勤務形態・H30) (児童厚生員は保育士資格有)
円田児童クラブ	7	10	40	3	児童厚生員 1人 補助員 2人 (1日、午後)
平沢児童クラブ	2	4	40	3	支援員 (保育士資格、児童厚生員資格所持) 1人 補助員 2人 (1日、午後)
永野児童クラブ	30	22	40	4	支援員 (保育士資格、児童厚生員資格所持) 1人 補助員 3人 (1日1人、午後2人)
宮児童クラブ	81	92	60	6	支援員 (保育士資格、児童厚生員資格所持) 1人 児童厚生員 1人 臨時支援員 1人 補助員 3人 (1日1人、午後2人)
遠刈田児童クラブ	10	1	40	2	支援員 (保育士資格、児童厚生員資格所持) 1人 補助員 1日 (1日) * 他5館兼務補助員 1人
計	130	129	220	19	

(2) 児童館（小学生自由来館の状況・H29年度）

	自由来館利用児童数 (1日平均数) ①	全校生徒数からみた 自由来館利用割合	放課後児童クラブ 利用児童数 (1日平均) ②	1日平均 利用児童数 ①+②	自由来館児童 利用時間
円田児童館	35.9人	43.7%	5.3人	41.2人	・4月～10月 午後4時30分 まで
平沢児童館	36.1人	61.2%	1.2人	37.3人	
永野児童館	29.2人	40.6%	18.8人	48.0人	・11月～3月 午後4時まで
宮児童館	23.3人	18.8%	53.7人	77.0人	
遠刈田児童館	10.8人	13.3%	4.8人	15.6人	

(3) ございん学習室（小・中学校における放課後学習指導）

- ・被災地（3県）支援として、H26年度～H32年度までの国の事業
- ・児童生徒の家庭学習の習慣形成および学力向上、地域コミュニティの再生が目的
- ・各小学校の教室で週2回実施（年間60日）
- ・学び支援コーデイネーターが学習指導

※小学生のみ今回は記載。

[平成29年度ございん学習室実績] (人)

	円田小	平沢小	永野小	宮小	遠刈田小
在籍児童数	91	59	103	196	85
利用者数	23.5	14.5	18.9	34.4	33.8

*学習室への来館者はのべで在籍児童の約25%

5. 蔵王町が抱える放課後児童クラブの問題点

(1) 利用ニーズへの対応への問題点

- 広大な面積を持つ蔵王町は、小学校区ごとに立地条件が大きく異なり人口分布にも差がある。
- アクセスがよい町内部に人口が集中しているが、山間部の地区には人口が少ない。
- 町内でも人口分布にばらつきがあることから利用ニーズにもばらつきという大きな差異が生じている。



各放課後児童クラブが抱える悩みが異なる。



具体的支障例

- 宮児童館には、登録児童数は増加し、定員を超える事態が近年起こっている。



- 一方、山間部の遠刈田児童館の登録児童数は一人である。

- 町内において利用ニーズの偏りが顕著に現れており、必要な支援員の数、施設の規模においても施設ごとに大きく異なる。

(2) 放課後児童対策に係る人材の確保に関する問題点

- 急激な利用児童数、登録児童数の増加により職員を増員した。



学校長期休業日を除き、午前中は2名勤務。午後のみ職員確保のため、短時間のパートタイム等の職員も確保し、運営は行えているが研修受講はハードルが高い部分がある



- 研修受講中の代替職員が多く確保できない。(1年で2名受講)
- 支援員や補助員のなり手がいない。
- パートタイムで働く女性等なので、通常勤務時間外に研修時間を確保することが困難

(3) 放課後児童対策に係る施設の確保についての問題点

- 宮児童クラブは、急激な登録、利用児童数の増加に伴い施設の増築を行ったが、安全確保、質の確保がむずかしい。



- ・ 昨年度より、一斉下校日に限り小学校体育館を利用した。



- ・ 職員が2つに分かれるため、職員確保が大変だった。



- ・ 平成30年度さらに増築予定



6. 放課後児童クラブの従うべき基準の参酌化に対する方向性

2名の職員配置が必須条件であるが、地域差や利用児童数に対応した柔軟な人員配置が可能であれば利用数が増加しているクラブに加配し、少ない地域には利用児童数にあった職員数を配置できる。

人材確保は町村において喫緊の課題であり、人材有効活用を行いたい。

安全確保のために蔵王町は、

「災害時における相互協力に関する協定書」

各小学校 ⇄ 各児童館 を結んでいる。

- ・各地区、小学校と児童館が隣接しておりすぐに駆け付けられる距離にある。
- ・災害時等（火災、地震、火山異常、不法侵入者、水害等）において、児童の避難、管理、保全、安全に関して職員の協力を要請することができる。

